

水圏生物学 (2単位)

担当者氏名 森山俊介

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

水圏、特に海洋の生態系の構造と機能を広く知り、そこに生息する各種生物の生理・生態について、陸上生物と比較しながら、その特徴を学ぶことができる。また、海洋生態系に及ぼす漁業を含む人間活動の影響を考慮しながら、海の生物資源を効果的に利用し、保全していく方法を考えることができる。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

海洋生物学 海洋生物環境学 海洋生態学 海洋生理学
漁業学

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	海洋環境と生物-1	海洋および陸水の構造	<p>本講義は、水圏の生態系とそこに生きる生物の生理・生態とそれに対する漁業を含む人間活動の影響について、特に陸域生態系と農業との違いが理解でき、かつ議論できることを重視する。</p> <p>授業の内容を理解させるためにプリントを配布するので、キーワードを参考にして予習・復習をして講義に臨むこと。</p>
2	海洋環境と生物-2	海洋生物の特徴－陸上生物との比較	
3	海洋生態系の構造-1	海洋における様々な生態系の特徴-1	
4	海洋生態系の構造-2	海洋における様々な生態系の特徴-2	
5	海洋生物の生態-1	生活史の多様性と生き残り戦略	
6	海洋生物の生態-2	子孫を残すための工夫	
7	海洋生物の生態-3	生物間の相互作用	
8	海洋生物の生理-1	魚類の成長、適応と成熟	
9	海洋生物の生理-2	無脊椎動物の成長、適応と成熟	
10	海の生物生産と漁業-1	漁業の形態と漁獲量の変遷	
11	海の生物生産と漁業-2	海の生物資源の特徴とその有効利用	
12	海の生物生産と漁業-3	栽培漁業の検証－アワビ類を例に	
13	海の生物生産と漁業-4	アワビ類の生態と資源管理、増殖	
14	海の環境問題-1	海洋における様々な環境問題	
15	海の環境問題-2	水圏生物に及ぼす人間活動の影響	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

毎回講義の終わりに、その日の講義の内容に関する小テストを行う。この小テストの成績に基づき評価する。

◆オフィスアワー

質問等があれば随時メールにて受け付ける。

◆その他受講上の注意事項